

【別紙】

一般社団法人 日本ボクシング連盟 令和4年度 第5回理事会別添資料
2022.10.2(日) 20:00~22:05

会長挨拶：こんばんは。遅い時間にありがとうございます。今日も審議事項・決議事項ありますが最後までよろしくお願ひいたします。

1 議事の経過の要領及び議案審議の結果

1) 決議事項

1. パリオリンピック代表選考方法について

仲間議長：新しい理事の方々には詳細な背景を知らないと思うので簡単に説明する。

IBAは、東京オリンピックの時にガバナンス不全があり経済的にも不安定で問題があるということでIOCからオリンピック競技の運営権を剥奪された。IFとしてのコントロール下ではなく、IOCのボクシングタスクフォースが運営して、予選の方法を決定し大会の運営を行った。ガバナンスが改善されなければ、パリオリンピックもIOCタスクフォースの継続であると東京オリンピック前から言われていた。先日行われたIBAの選挙とかも含めて最終的にIOCが判断したのは、パリオリンピックに関してもIBAに任せることは出来ないということになり、IOCタスクフォースが予選の方式やパリオリンピックの運営をすることとなった。このままだと、パリの次のロサンゼルスオリンピックではボクシング競技はオリンピック競技から外れる唯識事態となった。

パリオリンピックの予選方法はIBAから発表されていたが、IBAが外されることになり白紙になった。

本年度9月に中国広州で行われる予定であった2022年アジア大会が、来年に延期された。先日9月前半に、この大会をアジア大陸予選に充てるとIOCから報告があった。IBAが参加でない大会で選んで欲しい旨のアナウンスである。アジア大会の選手は、男子5名・女子3名の枠をJOCから貰っていて、既に代表選考は終わっている。来年のアジア大陸予選が選考大会になるのであれば、代表選手の選考をやり直さないといけない。

代表選考をやり直すなら、今年11月の全日本選手権が中心的大会になると考えていたが、全日本選手権の前にASBC主催のアジア選手権が開催される。この大会の日程が近いために、男女強化委員会と担当理事でこの扱いをどうするかを協議して貰った。アジア選手権自体は、オリンピック選考とは全く関係ないということで全日本選手権を優先すべきではないかという意見も出たが、強化委員会から出して貰った結論は、アジア選手権に派遣する選手は決まっており、アジア選手権に出場した選手と全日本選手権の優勝者でボックスオフを行って、来年のアジア大会の選考とするのが良いのではないかという意見が上がっている。

オリンピック階級とIBA階級は、IBA階級2階級に対してオリンピック階級がほぼ1階級という形になっている。

アジア大会がどのような階級で実施されるかによって代表選手の数が不確実になるので、オリンピック階級とIBA階級とを併せた階級でのボックスオフとなる案を出して貰っている。

今回議論になるのは、アジア選手権の代表選手は、ほぼ昨年度的全日本選手権優勝者である。今年的全日本選手権の優勝者を代表者選考せずに優先するのか？今回のアジア選手権に出る選手とボックスオフをしてアジア大会に関する代表を決めることになると、事実上2021と2022の全日本選手権優勝者で代表権を争うことになる。

理事会が最終決定機関になるので、強化委員会から出てきた案をどうするのか

決めないといけない。

パリオリンピックは2024だが、2024年の夏までの間の早い段階で最終予選が行われる。その大会には、2023全日本選手権の優勝者を派遣することになると思う。

菊池理事：以前、理事グループLINEで全日本選手権の結果を最優先しないといけないという意見を言わせて貰った。それは本年度行われる全日本選手権のことを意味していた。昨年度的全日本選手権覇者がアジア選手権に行くわけだが、その選手たちが確約されているということはおかしい話になると思う。せめて、メダル獲得をした場合は、国際大会で通用する力を十分持っているという判断を持って良いのかもしれないが、やはり今年的全日本選手権の覇者が日本代表の資格を得るべきではないかと以前から考えていた。

井崎理事：仲間議長が先ほど言われたアジア選手権の代表が、昨年全日本選手権の優勝者と言われていたが、先日LINEで送って貰った資料を見ると、ほぼほぼ2021年の世界選手権の代表だと思うが、昨年全日本選手権の優勝者を優遇しているわけではない？

仲間議長：先ほどの説明は一部言い間違えている。昨年度のトップ選手で、全日本選手権に優勝している選手ではない。

井崎理事：アジア選手権に出る選手は決定しているのか？

仲間議長：アジア選手権については選手選考委員会で決定し、エントリー済みである。出ない選択は出来る。

菊池理事：先ほどの発言を修正したい。昨年全日本選手権覇者がアジア選手権に出場するというでなければ、なおさら、出場選手が優遇されてボックスオフに入るのはちょっと違うのではないか。最新の国内最強の選手を送り込んでいくのが一番大事なことである。今年全日本選手権の覇者を優先的にすることが大事である。全日本選手権に出場せず、アジア選手権に出場した選手のチャンスがゼロになってしまうのもかわいそうなので、メダル獲得がその証明になるのではないか。

仲間議長：女子はむしろ全日本覇者が多い。9/30付けでエントリーを完了している。本来ならば、国内のそのタイミングでの最強選手を派遣しないとチャンスがないと感じる選手はいると思う。メダルを獲得した場合と、出場した場合とでは大きく変わって来る。おそらくこのアジア選手権代表になっている選手からすると、全日本選手権で優勝する可能性が非常に高いと思うが、アジア選手権でメダルを獲ることはハードルが高くなる。アジア選手権を辞退して、全日本選手権に集中する選手も出て来るかもしれない。

成松理事：アジア選手権で派遣しない階級があるが、その理由を聞きたい。

仲間議長：前回の世界選手権のメンバーを中心に編成したという形で、全階級の派遣に至ってないという形だと思う。

成松理事：来年のアジア大会に向けての選考については、正直そこまで問題とは思っていない。オリンピック階級じゃない選手が選考に絡むことが現状出来ている訳だが、その辺がちょっと私の中であまり納得できない部分である。

仲間議長：オリンピック階級に直接で出てない限りはという形か？その前後の階級が入れてしまうことがおかしいということか？

成松理事：そういうことである。

仲間議長：ただ、オリンピック階級はIBA階級と幅が違う。例えばライト級57～60kg、フェザー級54～57kgは一緒だが、その他の階級では前後の階級が含まれる幅になる。

成松理事：理解した。

須佐理事：前回の理事会でもあったが凄く難しいところである。私的には強化委員会の案のまま行ったほうが良いと思う。理由は、来年のアジア大会が初戦のオリンピ

ック予選になる。全日本選手権優勝者が全員出場したとして、次いきなりアジア大会参加となるとかなり厳しいと思う。例えば、体重が違うので地方国際大会とかもあるが、いきなりオリンピックの本戦でやったことない階級で戦うことは、かなりハードルが高いということと、皆さんもご存じのとおりオリンピック階級はめちゃくちゃ減った。階級も減ったし、枠も人数も減った。だから、アジア大会、世界一次予選、二次予選では、51 kg級では16名しか出られない。アジア大会でオリンピックに行けるのは多分2名とかになると思う。世界一次予選、二次予選で14名くらいが残る形の戦いになる。そうなった時にはアジアの決勝まで行かなければならない。それぐらい高いレベルでかなり厳しい。フレキシブルに考えて、アジア選手権で今の自分の立ち位置はどこかということを確認して、その後ボックスオフをやって、アジア大会に向けてやることだと思う。多分私の公算だと、アジア大会でオリンピックの出場権を取れなかったら、多分世界一次は無理だと思う。やはり、アジア選手権の位置付けはすごく重要で、その大会に出て自分の立ち位置をつかんで、その後ボックスオフをやる方法が選手のためになるのではないかと思う。勝たせる選手を派遣するも、理事会のマネジメントだと思う。そこが大事だということになると、全日本選手権に出られないのはかわいそうだけれど、アジア選手権に出すべきではと私は思う。

成松理事：須佐理事の考えに納得した。来年の2023全日本選手権の扱いについてももう一回確認したい。

仲間議長：今のところIOCの発表だと、大陸予選の他に世界最終予選が二つあると発表されている。オリンピックに出るために3回チャンスがあるみたいな書き方をしている。多分最終予選が2回あるのだと思う。そこに関しての派遣は、2023全日本選手権の優勝者を派遣するという話が出ている。ただ、階級をどういう風にするかに関しても、恐らくこれは公平にオリンピック階級でやることになってくると思うが、そこまでの詳細の話はできていない。

成松理事：はい、わかりました。私の意見としては、オリンピック階級の優勝者のみにチャンスがあり、余計なボックスオフは選手の負担になると思う。2023年に関しては、オリンピック階級に出て優勝した選手のみ派遣のチャンスを与えたいという考えである。

安川理事：来年9月のアジア大会でオリンピック枠を取った選手がオリンピック代表候補となるということで良いか？

仲間議長：これが実はわからない。アジア競技大会の実施階級が全部白紙に戻ってしまっている状況である。オリンピック階級でやるのか、IBA階級でやるのかわからない。ここに関しては情報を待たないといけない。JOCから内定を頂いている階級がそもそも男子5枠女子3枠しかない。これについては、JOCと枠の交渉をしないといけない。全日本選手権の優勝者を派遣するとか、アジア選手権に出た選手とボックスオフをすることすら出来ないかもしれない。IOCがこれを大陸予選とする旨なのでJOCも相談に乗ってくれるとは思いますが。

安川理事：来年の9月までに実施階級が決まったとして、日本がその階級の枠を取った時に、その枠を取った選手が出るということが前提か？それともその枠を取ったので、その後に行われる全日本選手権で優勝した選手が出るのか？

仲間理事：個人枠なので枠を取った選手が出る。枠を取った選手を代表候補者としてJOCから確定を頂く。

ある程度議論は出たと思う。IBA階級とオリンピック階級の件とか色々あるが、強化委員会の出して来ているアジア選手権に出た選手と、2022全日本選手権の優勝者がボックスオフをすることが大きな案なる。菊池理事がおっしゃっていた、アジア選手権でメダルをとった選手の様子に他の案を加えた方が良いのではないかという部分があれば、反対の意見にして欲しい。この案について

賛成か反対かという形で諮りたい。

岩崎理事：この案は、男女のすり合わせ会議で決めた。大筋でこれを認めていただければと思う。ただ、ちょっと女子の方で、アジア選手権に出ても全日本に出たいという選手がいる。そうなった時に、全日本のエントリーは皆日連推薦という形になっているが、いつまでにエントリーすれば良いか？

仲間議長：エントリーは10月半ばメ切だったと思う。アジア選手権に行く前にエントリーを完了していないといけない。

全日本選手権に出た場合は、優勝しなければボックスオフの権利を失う。

須佐理事：何度も繰り返しになるが、私の考えだとアジア大会で負けたら多分もう厳しい。アジア大会の決勝までいかないと難しい。

仲間理事：アジア大会の前に、実際に自分がオリンピックで戦う階級や、オリンピック予選として戦うアジア大会の相手としてシェア出来るチャンスでもある。有力選手に、アジア選手権にしっかりと出場してもらって、そこで良い経験を積んできて貰う、立ち位置を知ってして貰おうというのが、とても重要なのではないかというご意見かと思う。

須佐理事：2年とか3年とかの時間があれば、皆さんと同じ意見で良いが時間がない。来年9月までに国際大会を何回経験出来るかが大事なこと。

成松理事：今回の案が通った場合について、事前に確認しておきたい。今年の全日本選手権に、アジア選手権に参加した選手が出た場合は、ボックスオフの権利を失い、かつ、負けてしまった場合は、全日本優勝者がアジア大会に出るということで良いのか？

仲間議長：階級によると思う。階級が前後を含めるとして最大4人という可能性がある。今回の全日本選手権は、オリンピック階級ではない。アジアの大会がどういう階級で行われるかによる。

決議に入りたいと思う。公平性を担保するために、強化委員会から挙がっている案を、もう少し再考しなおす方が良いのではないかという菊池理事の案と、現在トップで戦っている選手たちが、アジア大陸予選の前に、アジアで試合出来る状況をきちんと作って、現行の選手たちの強化の可能性というか、経験を積ませるためのアジア選手権を優先させるべきではないかという意見かと思う。日程が近過ぎるので、混乱させてしまうことになるのではないかという部分があるかと思う。

佐藤理事：菊池理事の仰っていた内容だと、全日本選手権を優先して、代表者を全日本選手権優勝者から選ぶ形になった場合は、ボックスオフは行わない。アジア選手権に関しては、今回選考対象にしないという解釈で良いか。

仲間理事：今回、内容詳細までを決めることがこの意見だけだと難しいので、とりあえず強化委員会の上げてきた意見に賛成か反対かで決めたいと思う。

菊池理事の意見の場合、アジア選手権のメダリストと全日本選手権優勝者でボックスオフをするべきであるという意見を仰っていた。これはそもそもボックスオフをしないと、アジア選手権ベスト8ぐらいにしておくべきだと色々なやり方があると思う。今回、そこはちょっと置いておいて、須佐理事が仰った、このままの意見で強化委員会が上げてきている意見で行く意見と、一旦考えてみるかという形で決議を取るのが一番良いのではないかと思う。

須佐理事：例えば反対となった場合、その案はいつ決めるのか？結構時間がないと思う。

仲間議長：早急に強化委員を呼んで決めないといけない。本当は今日帰って来る日と重ならなかつたら、強化委員長と副委員長を呼んだ方が良かったのではないかと考えていた。もし反対になると数日以内に決めないといけない。

反対の方、賛成の方という形のどちらかだけ取ると、微妙なニュアンスの方が難しくなってくると思うので、強化委員会が上げてきている案で全日本選手権優勝者と、アジア選手権出場者とでボックスオフをするという案に賛成の人と

いう形でまず手を上げて頂き、その後でアジア選手権の扱いについて再考すべきであるという方をもう一回挙手していただく。それで全員の手が挙がっていない分に関して確認をする。菊池理事、須佐理事この聞き方でよろしいか？

強化委員会が上げてきている、アジア選手権への出場者と全日本選手権優勝者でボックスオフをして来年のアジア大会の代表を決めるべきであるという方は挙手をお願いします。挙手 15 名。

アジア選手権の扱いに関しては、一旦保留すべきであるという方は挙手をお願いします。挙手 4 名

決議内容は、「強化委員会の案に 15 名の挙手で、アジア選手権の出場者と全日本選手権の優勝者でボックスオフをする。階級に関しては、アジア大会の発表を待って決定する。」という形にさせていただきます。

2. 加盟団体規定について

仲間議長：予てから富岡マネージャーが一生懸命やってくれている加盟団体規程について、内閣府との公益法人に向けて色々セッションしている中で、加盟団体規程の制定だけが唯一残っている。前回の総会の時に、岩井監事から加盟団体規程がないことが結局はちょっと混乱を呼んだという形でご指摘いただいている。罰則規程まで含めての規程が必要だろうと言うことで、今期から理事として参加して下さっている杉崎理事のご尽力もあって、しっかりとしたものを作っていたいただいている。こちらに関しては色々不手際があって資料のアップが遅くなった部分もあり申し訳ありません。特にここを説明しておくべきところがあれば杉崎理事をお願いします。

杉崎理事：加盟団体規程ですが、大阪府スポーツ協会で作りました。私は、そのガバナンスコードの適合委員をしており、その加盟団体規程を色々協議しながら作成した。今回、2 年前に日連の方から提示があった加盟団体規程案だが、加盟団体 47 都道府県下にある唯一の団体であるが、ブロック連盟の取り扱いをどうするかというところが非常に考えたところである。当然ながら、ブロック連盟も競技会を実施しており運営もしている。そのあたりで、ちょっとおかしいことがあった時は、やはり日連が介入し調査等々しないといけないという立つけになっている。

この加盟団体規程だが、加盟団体においてちょっとおかしいことがあると、23 条に規定される調査を倫理資格審査委員会で執り行うとことにしている。これは倫理規則の方でも個人に対しては、倫理資格審査委員会が担当しているが、加盟団体と個人とおそらく重複するところがあるだろうというところで、倫理資格審査委員会に調査権を設定している。同時に、加盟団体及び地方ブロック連盟の処分に関する基準というのも併せて提案をさせていただきます。倫理規則の中にも個人を調査する場合、その条項があり倫理規則に規定する処分に関する基準というのも、今回一緒に提案をさせて頂き、倫理資格審査委員会で検討いただいたという経緯である。

仲間議長：質問はないか？倫理資格審査委員会とコンプライアンス委員会で確認していただいている。この理事会で可決されれば、10/30 の総会での可決を目指すべく総会の招集通知とともに流して、質疑も同時に受け付けるという形にさせていただきますかと考えている。

岩井監事：内容面について、加盟団体規程の一番最後の改正が、理事会の承認と言う形になっているが、この規程自体はあの今月末予定されている総会で決議される予定だと理解をしているが、その改訂の権限を理事会にして良いのかどうかとい

うのは、どういう整理か？

仲間議長：仰るとおりである。起案は理事会で決定は総会だと思う。こちらは訂正する。

岩井監事：もう一件、加盟団体の処分の中に退会というものがあるかと思うが、ここでいう退会と、その正会員を除名することとの関係がちょっとよくわからない。その正会員の除名、つまり加盟団体を代表する者の除名に当たるが、加盟団体を仮に退会となった時には当然正会員、つまり社員＝代表者としての資格が自動的に失われるっていう理解になるのか？そうであれば、その加盟団体を代表するものは正会員だが、加盟団体だけ退会させられて、この正会員の本来議決権を持たれている方の除名も、それを同じ扱いとしてやるのであれば、それはその方の除名も含めてやらなければいけないし、この加盟団体の退会というものがどういう効果を持つかがちょっとわからない。

杉崎理事：その辺は整理させて頂いた方が良いか？逆にどのようにしたら良いのかご教示頂ければ。

岩井監事：その退会というのは、例えば、東京都では東京都連盟が退会になって、なんか別の組織を作るということを指しているのだと思う。一方で都道府県に1つしか団体が作れないとなっているので、その退会がどういう意味をもたせようとしているのか、なんかちょっとよくわからない。その退会というものをなしにしてもいいのかもしれないし、或いはその代表者を変えるということだけで、足りるのであれば、地方連盟の代表者を代える処分的なものを作るとかで良いのではないかという気もした。つまり、どういう効果かわからない。

杉崎理事：実際に作っていて、この退会ということについては、今のボクシング連盟の現状ではあんまり考えにくいというのはあった。ただ、退会を取ってしまうと、それまでの処分というところになるので、この辺どういうふうに整理をすれば一番いいのか？資格停止、退会は想定をしにくいが一応置いておく必要があるかと思っていた。何かキッチリ、スッキリするものがあれば、それでも良いかと思うが何か良い案があればご教示頂き、それで修正することは全然問題ないかと思う。

岩井監事：現時点で案は持ちあわせていない。問題意識だけはちょっと申し上げたとおりである。早急に作らなければならないということであれば、一旦このまま行っていただいて、後から速やかなタイミングで変更されることでもやむを得ないと思う。

杉崎理事：とりあえず想定はしにくいですが、これでとりあえず走ってみて、支障があれば直ぐに理事会の方で提案して、総会で修正するというような事があっても良いかと思う。

安川理事：加盟団体及び地方ブロック連盟の処分に関する基準のところだが、第5条処分の種類及び内容の(3)資格停止のA日連各種事業への参画で各大会がずらっと並んでいるが、全日本女子ボクシング選手権大会というのは今存在していない。この大会たくさん羅列されているが、単純に日連主催共催大会で一括してまとめても問題ないと思う。

仲間議長：安川理事が提案して下さったような日連主催共催大会という記載のほうが良さそうである。

特になければ、加盟団体規程及びそれに付随する加盟団体の処分に関する基準の二つに関して別々で決議を採る。

- ・加盟団体規程に対して反対なし 満場一致で可決
- ・加盟団の処分に関する基準に対して反対なし 満場一致で可決

3. コンプライアンス委員会で審議した各種規則の承認について

仲間議長：コンプライアンス委員会で審議した各種規則の承認についてであるが、こちらに関して杉崎理事にいろいろと仕事をしていただいた。コンプライアンス委員会規程の改正、コンプライアンス規則の改正、専門部専門委員会組織規則の改正、倫理資格審査委員会規則の改正、倫理規則に規定する処分に関する規則の制定の五つになる。簡単にそれぞれ説明や解説があれば杉崎理事願います。

杉崎理事：コンプライアンス委員会規則について、去年、制定されたのだが、この委員会だけなぜか規程となっており、規則が良いのではないかとということ変更した。あと、実際の現状とそぐわない部分とケアレスミスもあったので修正した。コンプライアンス規則改正案については、「日連」の表記が2条からあとは「本連盟」の表記とされているので全て「日連」に修正したことと、資格審査委員会から倫理資格審査委員会に修正した。機密保持については、「倫理委員会」を「倫理・資格審査委員会及びコンプライアンス委員会」に修正した。専門部・専門委員会組織規則は、現状に即した形で修正をした。第4条の2項だが、「専門部の副部長及び部員は」になっているので、副部長及びを削除し「専門部の部員は」に修正した。コンプライアンス委員会で後ろの別表は必要ないので削除。第9条で理事は専門委員会の委員長を兼務することができないので、「アスリート委員会は除く」としておかないと現行と齟齬が生じるので修正した。

仲間議長：あと、「それぞれの担当理事が推薦した者を」ではなく、専門部の部長及び副部長は、理事会で選任して会長が委嘱するに修正する。理事は部長の兼務ができない。「部員は、部長及び副部長が選任する」に修正する。

杉崎理事：部員の数だが、なぜか若干名となっており、現行と違うので削除した。委員会の規則で全てその人数を規定していただければ済むと思いを削除している。

須佐理事：多分記載すべきかと思うところで、強化委員会の委員長、副委員長を決める時期について、選手も困るとかあり、オリンピックが終わった時期に交代という形の方がよりスムーズではないか？

杉崎理事：それについては、専門部・専門委員会規則で謳うのではなく、強化委員会規則をきっちり作っていただいた方が良い。強化委員会だけ少し他の委員会と違い特別だと思う。現在、競技力向上委員会という規程になっている。加盟団体規程が了承されたら速やかに強化委員会の規程を作った方が良い。お手伝いはしても良い。委員を誰が決めるのか細かい決め方をきちんと規則で謳ったほうが良いと私は思う。

仲間議長：他にないか？無いようなので決議を採る。

3-1 コンプライアンス委員会規程の改正案について

反対なし 満場一致で可決

3-2 コンプライアンス規則改正案について

反対なし 満場一致で可決

3-3 専門部・専門委員会組織規則の改正案について

(専門部・専門委員会組織規則に関して、先ほど一部訂正があったが、その訂正を含めた形と具体的に訂正したところを含み。)

反対なし 満場一致で可決

3-4 倫理・資格審査委員会規則改正案について

反対なし 満場一致で可決

3-5 倫理規則に規定する処分に関する基準(案)について

(安川理事からの指摘を修正し)

反対なし 満場一致で可決

富岡氏：内閣府の公益法人認定の審査上、最後の課題となっていたところスムーズな決議をいただきありがとうございます。

杉崎理事：倫理・資格審査委員会の山崎委員長からご意見を伺っているので披露させていただく。今後、倫理資格審査委員会の業務がちょっと増えそうだとするところで、その規則の中に山崎委員長自ら調査に入らせていただくことは出来るだけ避けて、委員複数名で、委員長の指示を仰ぎながら対応したらどうかと思う。人数も今後の業務がかさんできたら、増員をさせて頂こうと考えている。倫理資格審査委員会の中では合意している。

4. 愛知アジア大会プレ大会について

池端理事：2026年に愛知県でアジア大会が開催することが決定し、当時の理事会ではプレ大会として全日本選手権を行うことが決定されていた。しかし国体隔年開催の問題で、国体のプレ大会である社会人選手権と全日本女子ジュニア大会の開催地を決定するのに苦慮する状態が続いている。今年度は鹿児島県の代わりに紋別で開催し、来年度は佐賀県の代わりに三重県での開催していただける予定となっている。あと1度、青森国体でボクシング競技が実施されない年が残っており、これがちょうど2025年の愛知アジア大会プレ大会の年となる。そこで、全日本選手権はこのまま墨田区の方で開催していただき、社会人選手権と女子ジュニア大会をプレ大会として実施する事を愛知県の方に打診する。という事で以前の議決を変更していただきたいという提案である。

井崎理事：プレ大会は国際大会でなくてもよいのか。

池端理事：あくまでも大会運営に関するプレ大会である。

仲間議長：この案に反対の方は挙手をお願いします。

反対なし 満場一致で可決

5. 臨時総会の招集について

仲間議長：10月30日（日）13：00～ Olympic Square の会議室は用意するがオンラインを推奨する。

（質疑なし）

仲間議長：この案に反対の方は挙手をお願いします。

反対なし 満場一致で可決

2) 報告事項

6. アンチ・ドーピング委員会から：居場所情報提出の徹底について

仲間議長：同一年度内に2回居場所登録ができていない選手がいる。居場所情報提出が義務付けられており、同一年度内に3回居場所情報の未提出（検査未了）となると資格停止になる。報告書すら提出していない状況である。他の選手も1度あり指導を受けている。

成松理事：アスリート委員会でオンライン会議を開き、対象者が居場所情報の提出を徹底する方法を話し合った。対策として所属先の担当者と連携して合宿や試合前に確認すること。検査対象者のグループLINEを作成して、アンチ・ドーピング委員会の委員にも参加してもらい情報を共有すること。この2点をアンチ・ドーピング委員会に報告した。

室伏理事：昨年、2022東京オリンピック・パラリンピックが行われましたが、1月の時点で日本のアスリートの居場所情報関連義務違反に関して危機的な状況が生じていたために、違反が生じることがないようにJADAが教育と啓発を重点的におこない、危機を回避できた。ドーピング検査に対応できなければ自分がクリーンであるとい

う証明ができない。個人情報を出すことになるので海外の選手がCASに訴えた例もあるが、検査逃れにもつながる可能性があるために、受け入れられなかった。JADAの教育だけではなくNFとしても寄り添いながら手助けをする必要がある。本人ができないときは代理人が行えるはずなのでダブルチェックをして本人が検査に対応できるように準備する必要がある。

居場所情報は1時間枠が設けられるが、他の時間に検査に来る可能性もある。競技会外検査は、時間内であればどの時間帯でも検査員が訪れる可能性がある。もし、日本のアスリートが居場所情報義務違反を多く繰り返せば、結果的に日本に対する制裁に発展する可能性についてもNFとして意識すべきであり、個々の問題と捉えないことが重要。制裁例としては、ロシアのように国として制裁を受けるような、国の代表として国際大会への参加が認められないなどの可能性についてもNFとして認識しておく必要がある。居場所情報の提出は、例えば住所や建物名称、部屋番号や、曜日によって守衛がないなどで建物に入れない可能性など、検査員が指定された場所にたどり着けるような丁寧な記載が必要。検査員も、なるべくアスリートが検査を受けられるように（会えるように）、居場所情報をもとに訪れるため、居合わせられるようにアスリート側も工夫して対応する必要がある。

佐藤理事：他の競技団体はどのような状況なのか。

室伏理事：居場所情報の提出状況は、十分対応できているか出来ていないかは、NFごとというより、個人が対応できるかというところもあると考える。とはいえ、そうしたアスリートを早期に把握し、フォローするためにNF全体で取り組む体制を作る必要があるのではと思う。

成松理事：今回の2名にはしっかり話しをしておく。

7. その他

◎IBAよりワールドボクシングトーナメントについて

仲間議長：IBAより来年の夏に大会を開催できないかと打診があったが準備期間や費用の間から断ったが、パリオリンピックが終わった後2025年かどうかという提案がきた。今後、皆様と議論していきたいと思う。

◎自主財源について

内田会長：5年ほど会長を務めさせていただき、皆様のおかげで他の競技団体に追い付いてきたと感じている。しかし、長く一般社団法人であったためスポンサー企業がほとんどいません。助成金の額は増えてきたが自主財源がほとんどなくそれも使えていない状況である。これから先、みなさんと協力してスポンサーを獲得しなければならないが、他の競技団体はそれに特化した委員会などがあるのか。今回の全日本選手権でも日本連盟から600万円程は出せるが実際には1500万円～2000万円近い金額がかかる。早急に対策を練る必要があると思う。

井崎理事：同感である。他競技はOBが大企業に行っている。ボクシングは皆無である。格闘技NGという所もある。血が出たりすることが敬遠される。

菊池理事：ボックスオフの方が事実上のオリンピック予選になるので全日本の注目度は下がると思う。それでも国内最高の大会なので守っていかなければならない。理事の皆さんの努力をお願いしたいと思う。

井崎理事：全日本選手権の中継は自前でもと考えている。

内田会長：全国でもスポンサーになりたい、協力したいという方もいるがやり方が分からないというのが現状である。なにかメリットがないと手を挙げて入ってくることができない。ボクシング連盟独特の閉鎖的な部分がある。そういった組織にスポンサーとしてつく企業はない。改善が必要だと思う。委員会の設置も視野に入れている。

成松理事：スポンサーが入ってこられない例があったのか。

内田会長：プロのスポンサーがアマチュアも応援したいと思っけていても交流が禁止されていたので断られたという例もある。また、現在の一般社団法人だとスポンサーになっても企業には税金の優遇などのメリットがない。ブロックから2名ほど委員を出してもらって、その地域を回ってもらいたい。

仲間議長：強化費は自主財源を1/3としないと助成金が使えない。例えば1000万円の自主財源があれば3000万円、100万円の自主財源だと300万円となる。助成金が増えても自主財源がないので使いきれないというのが現状である。

井崎理事：現状ではメリットとの乖離があるのでターゲットを絞る必要がある。

◎第3回目以降のマスボクシング大会について

菊池理事：先日、青森県で第2回マスボクシング大会が開催されたが3回目以降の開催地が決まっていない。ブロック協議委員会にお願いすのか理事会で決めるのか。来年は群馬県が手を上げてくれているがそれ以降はどうするのか。

池端理事：総務委員会でもその話がでて、従前の社会人選手権のローテーションでと考えている。社会人選手権は原則として北から順にローテーションとなっており、2018長崎、2019北海道、その後、国体のプレとすることが決定したがコロナで2年間中止となった。昨年は三重県で女子ジュニアのみ、今年度は紋別で臨時的に開催していただいている。マス大会は第1回が宮崎（九州）、第2回が青森（東北）、第3回が群馬（関東）となりそうなので、それ以降は北信越、東海、関西、中国、四国、九州、北海道という基本のローテーションを総務から理事会に提案するひつようがあると考えている。

以上